

「情報化に対応する教育」の推進に関する研究

情報教育部 長期研修員

第1章 研究構想

1 研究の主旨

高度情報化社会といわれている現在、教育においても情報化が進められている。各学校で「情報化に対応する教育」を行うために、情報活用の実践力、情報の科学的な理解、情報社会に参画する態度の3要素からなる情報活用能力の育成を教育課程の中で実践しようとする取組も見られるようになった。また、校内ネットワークの整備など環境整備を進めたり、「わかる授業」を目指して、コンピュータやネットワークなどの情報手段を活用した授業を試みたり、学校ホームページを公開したりするようになってきた。

しかし、地域性も異なり学校による課題も様々であるので、それらの取組には差が生じている。

そこで、所属する学校や地域を中心に「情報化に対応する教育」を推進するための課題を探りながら、課題に対応した推進策について個人研究主題を設定し、研究することとした。

2 研究の方法

- (1) 「情報化に対応する教育」とはどのような教育であるか、文献や研究事例、実践事例から調べる。
- (2) 所属する学校や地域を中心に「情報化に対応する教育」がどのように推進されているか現状をつかみ、課題を明らかにする。
- (3) 課題の中から個人研究の主題を設定し、具体的な方策を研究する。

3 研究の経過

月	研究内容	月	研究内容
4・5	・「情報化に対応する教育」についての基礎研究 「情報教育の実践と学校の情報化～新『情報教育に関する手引』～」など参考文献から	9	・個人研究 ・第2回研究経過報告会
6	・課題の把握と個人主題の決定	10	・中間報告会
7	・第1回研究経過報告会	11	・県外実践校・研究所等の視察研修
8	・個人研究	12	・研究のまとめ
		1	・個人研究原稿作成
		2	・研究報告会準備
		3	・研究報告会

4 研究の概要

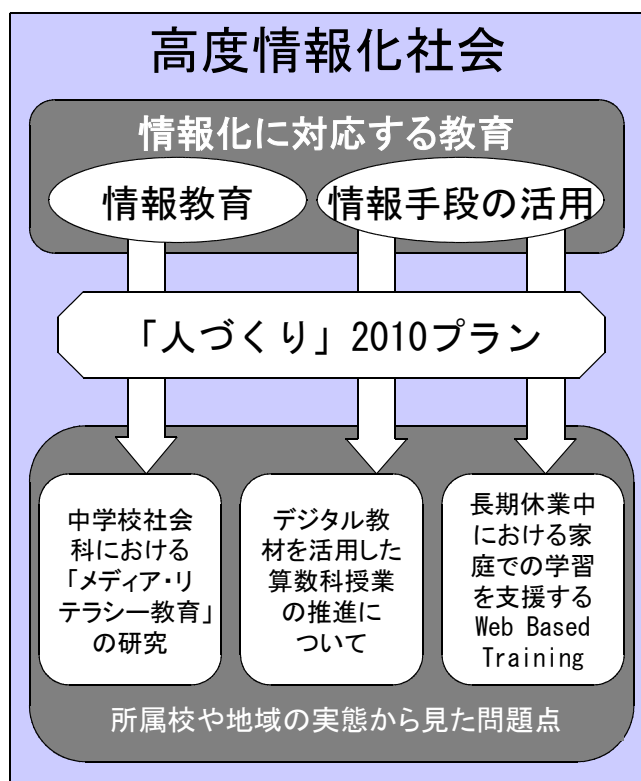
(1) 「情報化に対応する教育」について

「情報化に対応する教育」とはどのような教育であるか理解を深めるために、平成14年6月に文部科学省から提示された「情報教育の実践と学校の情報化～新『情報教育に関する手引』～」を中心に学習を進めた。その際、当センターをはじめとする県内外の教育施設の文献や実践事例にもできるだけ当たった。そして、「情報化に対応する教育」が今までにどのように進められてきたのか、現在はどうのような教育が行われているのか、今後どうのような教育が求められているのかを整理した。

(2) 「情報化に対応する教育」の推進に関する課題

静岡県から出された『「人づくり」2010プラン』に掲げられている第5章の2「情報化と科学技術の発展への対応」について検討してみたり、所属する学校や地域の現状を省みたりして課題を拾い出した。メディア・リテラシー教育についてまだまだ具体的な実施方法が明らかでないこと、日常的に授業で情報手段が十分に活用されていないこと、学習に役立つ情報通信ネットワークの活用が十分ではないことが課題として上がった。これらの課題から個人の研究主題を設定し、「情報化に対応する教育」の推進に関する研究の基本構想を資料1のように図式化した。

【資料1】 研究構想図



(3) 個人研究の概要

ア 中学校社会科における「メディア・リテラシー教育」の研究

「情報化に対応する教育」にかかわるものに「メディア・リテラシー教育」がある。しかし、それを授業で行うことはまだ広く普及しておらず、学習指導要領にも示されていないため、実施しようとしている現場の教師は少数である。現在研究が先行しているのは「国語」と「総合的な学習」であると考えられる。中学校社会科で養うべき「公民的資質の基礎」の一つにメディア・リテラシーも含まれると考えられること、社会科は資料を読み解く場面が多く、学んでいく上でメディア・リテラシーが不可欠であるので、それをはぐくむ格好の場であること、マスメディアそのものを学ぶのは社会科であることから、中学校社会科でも「メディア・リテラシー教育」は十分可能であるし、必要であると考え、その具体的な実施方法を明らかにしようと考えた。

イ デジタル教材を活用した算数科授業の推進について

Web上には様々なコンテンツが登場している。算数科の教材もWeb上に公開されるようになってきた。また、コンピュータに関する高度な知識や技能がなくてもプレゼンテーションのスライドやWebページを作成できるソフトウェアが増えてきた。それに伴って、コンピュータを使った発表・提案やWebページの公開等が一般に広がり、自作教材作成への応用も広がり始めている。これらのことを考えると、「デジタル化された教材」（以下「デジタル教材」という。）の入手や作成の困難さは以前ほどではなくなっていると考えられる。そこで、算数科授業において、教師が日常的にWeb上に公開されているデジタル教材や簡単に作成できるデジタル教材を活用できるようにするための方法を探っていくことにした。

ウ 長期休業中における家庭での学習を支援するWeb Based Training

家庭にネットワークが広がり、コンピュータを利用した学習が習慣化していくことを考えると、子供たちが家庭に居ながらインターネットで教材や情報を受信して学習を進める方法は、家庭学習の有効な手段になっていくだろうと考えた。特に、長期間学校生活から離れる長期休業中には、子供が自主的に学習を進めようとしても教材や支援者などの学習環境が十分とはいえない。そこで、この学習環境を補う手だてとして長期休業中にWebサイトを立ち上げWeb Based Trainingを実施し、利用状況や利用者の意識からWeb Based Trainingシステムの成果や問題点を明らかにすることにした。

第2章 研究内容

研究内容の構成

第1 中学校社会科における「メディア・リテラシー教育」の研究

- (1) メディア・リテラシーについての「社会科的読み解き」
- (2) 中学校社会科で身に付けたいメディア・リテラシーの抽出
- (3) 「メディア・リテラシー教育」の実施案作成
- (4) 研究授業の実践

第2 デジタル教材を活用した算数科授業の推進について

- (1) Web上に公開されているデジタル教材の活用計画表の作成
- (2) デジタル教材の作成
- (3) 授業実践によるデジタル教材の効果の検証

第3 長期休業中における家庭での学習を支援するWeb Based Training

- (1) Web Based Trainingの定義
- (2) Webサイト公開の準備
- (3) Web Based Trainingの実施
- (4) Web Based Trainingシステムの分析